

結果概要

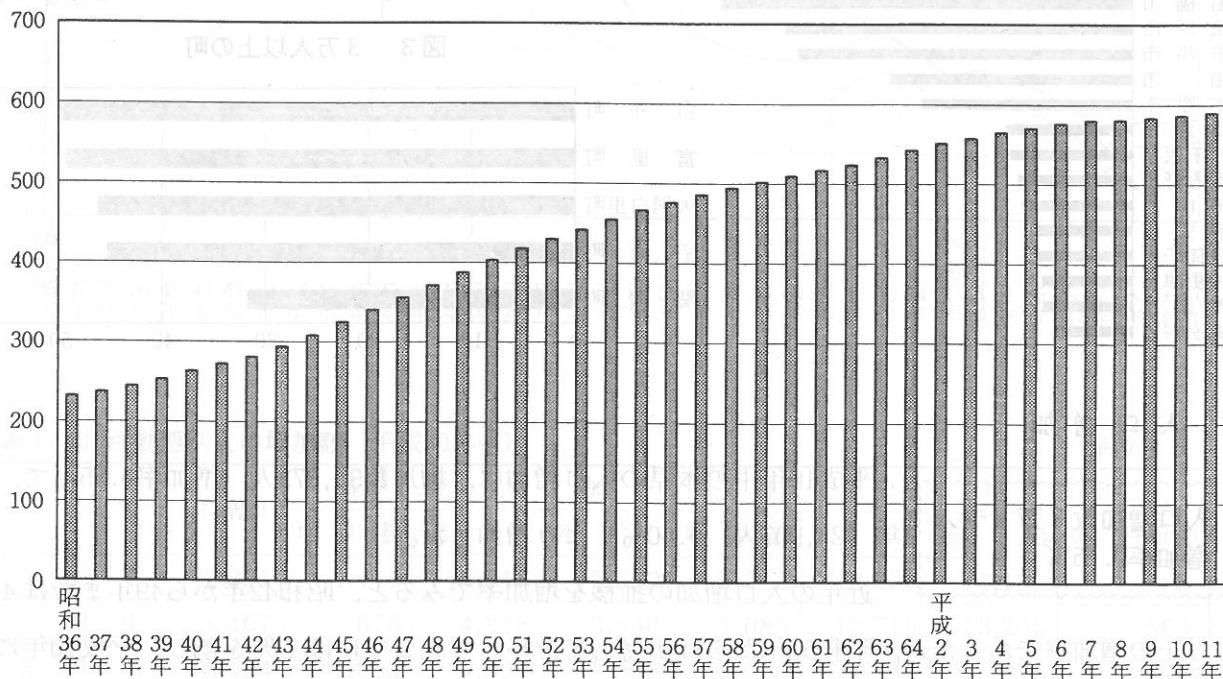
1. 人口総数

県人口589万人

平成11年1月1日現在の本県の人口は5,894,996人で、前年人口の5,862,623人
 に比べ32,373人、率にして0.55%増加した。本県の人口は、大正9年10月1日現
 在（国勢調査）1,336,155人で、その後増加を続け、昭和43年7月1日現在では300万人を超えて、
 3,011,134人となった。さらに、昭和49年11月1日現在では400万人を超え4,002,808人となり、昭
 和58年9月12日に500万人を突破した。

図1 千葉県人口の推移（各年1月1日現在）

(単位:万人)



平成7年国勢調査（平成7年10月1日現在）によると、本県の人口は5,797,782人で全国第6位と
 なっている。

千葉市人口87万3千人
県人口の14.8%を占める

平成11年1月1日現在の県人口を市町村別にみると、市部（31市）のうち10万人以上の市は15市あり、そのうち千葉市が87万3千人（県人口に占める割合14.8%）で最も多く、郡部人口74万7千人（同12.7%）より多くなっている。以下、船橋市54万8千人（同9.3%）、松戸市46万3千人（同7.8%）、市川市44万5千人（同7.5%）、柏市32万3千人（同5.5%）の順で続き、この5市で県人口の45.0%を占めている。

郡部（44町5村）では、白井町が5万人（同0.8%）で最も多く、以下、富里町4万9千人（同0.8%）、大網白里町4万6千人（同0.8%）、沼南町4万5千人（同0.8%）、関宿町3万2千人（同0.5%）の順となっている。

図2 10万人以上の市

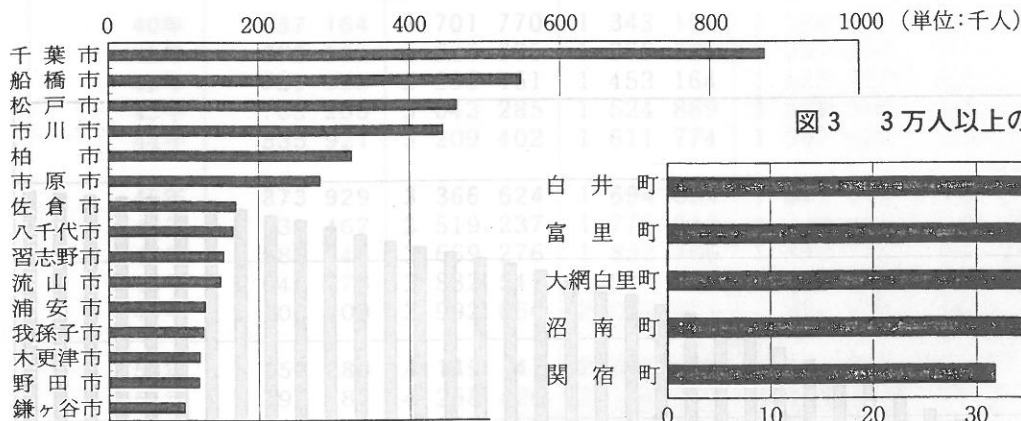
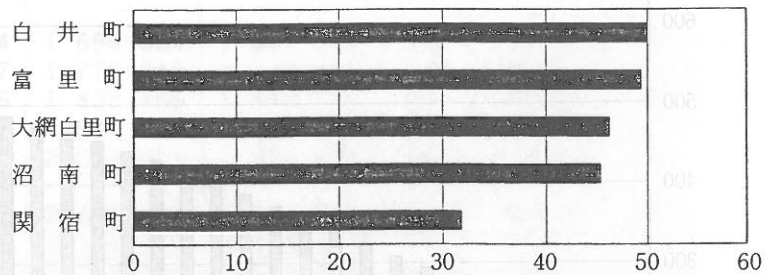


図3 3万人以上の町



2. 人口増加

人口増加数3万2千人
増加率0.55%

平成10年中の本県の人口増加は、増加数32,373人、増加率0.55%で、前年（28,907人、0.50%）より増加した。

近年の人口増加の推移を増加率で見ると、昭和42年から49年までは4%以上の増加率であったが、昭和57年からは1%台で推移、平成5年には1%を割り、平成10年には0.55%となった。

自然増加数は減少

平成10年中の自然増加は、増加数19,274人（出生56,011人、死亡36,737人）で、前年の20,585人（出生55,427人、死亡34,842人）に比べ出生が584人増加し、死亡が1,895人増加して自然増加数は1,311人減少となった。

近年の自然増加を増加率（各年1月1日現在人口に対する自然増加総数の割合）で見ると、昭和42年から54年までは1%以上の増加率であったが、昭和55年に1%を割り、平成元年以降は0.5%を下回って推移し、平成10年は0.33%となった。

社会増加数は増加

平成10年中の社会増加は、増加数13,099人（転入210,822人、転出198,379人、県内移動他656人）で、前年の8,322人（転入209,081人、転出201,101人、

県内移動他342人)に比べ、転入が1,741人増加し、転出が2,722人減少し、県内移動他が314人増加して、社会増加数は前年に比べ4,777人の増加となった。

近年の社会増加を増加率(各年1月1日現在人口に対する社会増加総数の割合)で見ると、昭和37年から昭和50年までは2%以上の増加率で、そのうち昭和44年は、3.97%と4%近い高い増加率であったが、昭和51年以降は1%前後の増加率で推移し、平成10年には0.22%となった。

図4 人口増加率の推移(昭和36年～平成10年)

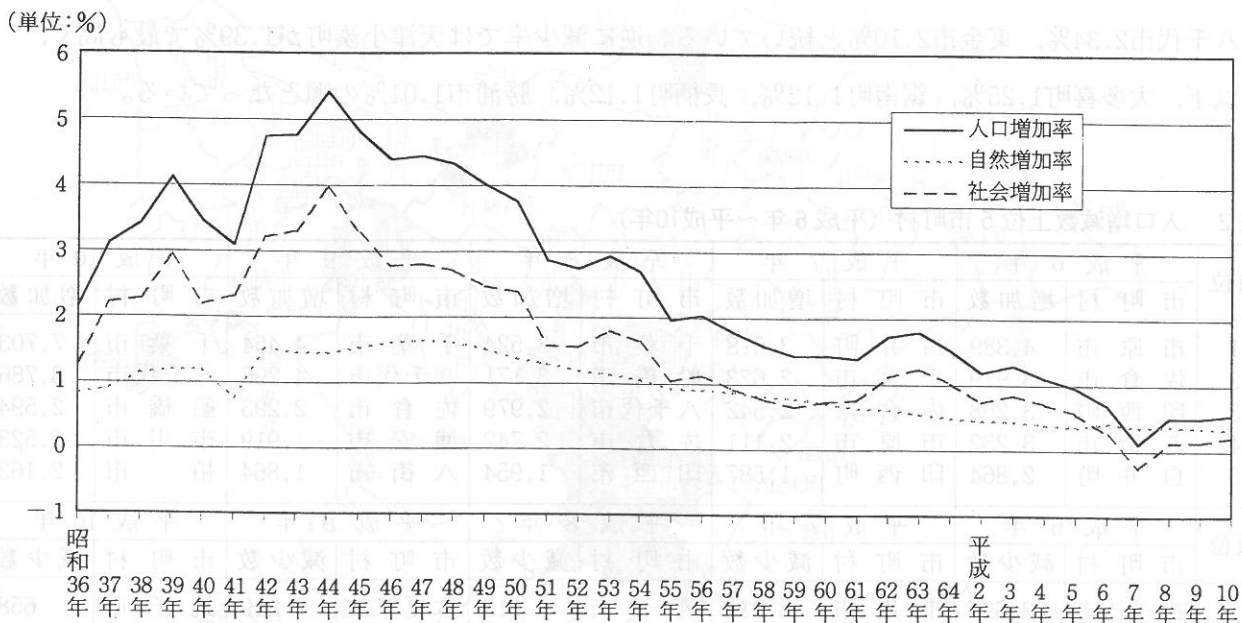


表1 月別動態別人口増加数(平成10年中)

(単位:人)

	人口増加	自然増加			社会増加			
		増加数	出生	死亡	増加数	転入	転出	県内移動他
1月中	2,391	1,119	4,948	3,829	1,272	12,376	11,192	88
2月中	-407	678	4,228	3,550	-1,085	12,715	13,235	-565
3月中	-8,134	1,092	4,598	3,506	-9,226	38,682	45,373	-2,535
4月中	16,519	1,459	4,357	2,898	15,060	35,453	23,166	2,773
5月中	3,981	1,748	4,545	2,797	2,233	14,255	12,515	493
6月中	3,326	1,877	4,853	2,976	1,449	13,995	12,643	97
7月中	1,561	2,122	4,991	2,869	-561	15,220	15,668	-113
8月中	4,359	2,074	4,862	2,788	2,285	15,836	13,947	396
9月中	2,661	2,203	4,859	2,656	458	13,998	13,339	-201
10月中	3,288	1,963	4,797	2,834	1,325	14,634	13,491	182
11月中	1,075	1,288	4,369	3,081	-213	12,039	12,101	-151
12月中	1,753	1,651	4,604	2,953	102	11,619	11,709	192
計	32,373	19,274	56,011	36,737	13,099	210,822	198,379	656

注) 県内移動他とは、県内間の転入・転出及び職権による記載・消除等をいう。

41市町村で人口増加
最高増加率は本埜村12.51%

平成10年中の人口増減を市町村別にみると、41市町村で人口が増加（平成9年中46市町村）し、39市町村で減少した。

増加数では千葉市が7,703人（県人口増加数に占める割合23.8%）で最も多く、以下八千代市3,786人（同11.7%）、船橋市2,594人（同8.0%）、市川市2,523人（同7.8%）、柏市2,163人（同6.7%）と続いている。逆に減少数では銚子市が658人で最も多く、以下、佐原市485人、館山市320人、鴨川市274人、富津市245人の順となっている。

また、人口増加率では本埜村が12.51%で最も高く、以下、神崎町2.58%、大網白里町2.35%、八千代市2.34%、東金市2.10%と続いている。逆に減少率では天津小湊町が1.39%で最も高く、以下、大多喜町1.25%、鋸南町1.12%、長柄町1.12%、勝浦市1.01%の順となっている。

表2 人口増減数上位5市町村（平成6年～平成10年）

順位	平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	市町村	増加数	市町村	増加数	市町村	増加数	市町村	増加数	市町村	増加数
1	市原市	4,389	白井町	3,018	千葉市	3,524	千葉市	4,454	千葉市	7,703
2	佐倉市	3,919	千葉市	2,623	船橋市	3,171	八千代市	4,296	八千代市	3,786
3	印西市	3,258	佐倉市	2,542	八千代市	2,979	佐倉市	2,293	船橋市	2,594
4	八街市	3,232	市原市	2,111	佐倉市	2,742	浦安市	1,919	市川市	2,523
5	白井町	2,864	印西市	1,587	印西市	1,954	八街市	1,864	柏市	2,163

順位	平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	市町村	減少数	市町村	減少数	市町村	減少数	市町村	減少数	市町村	減少数
1	市川市	2,697	市川市	3,814	銚子市	618	木更津市	819	銚子市	658
2	銚子市	643	松戸市	2,929	木更津市	408	銚子市	580	佐原市	485
3	習志野市	400	木更津市	2,109	関宿町	269	佐原市	288	館山市	320
4	館山市	284	八千代市	1,179	佐原市	240	鴨川市	270	鴨川市	274
5	木更津市	273	習志野市	1,161	松戸市	232	館山市	269	富津市	245

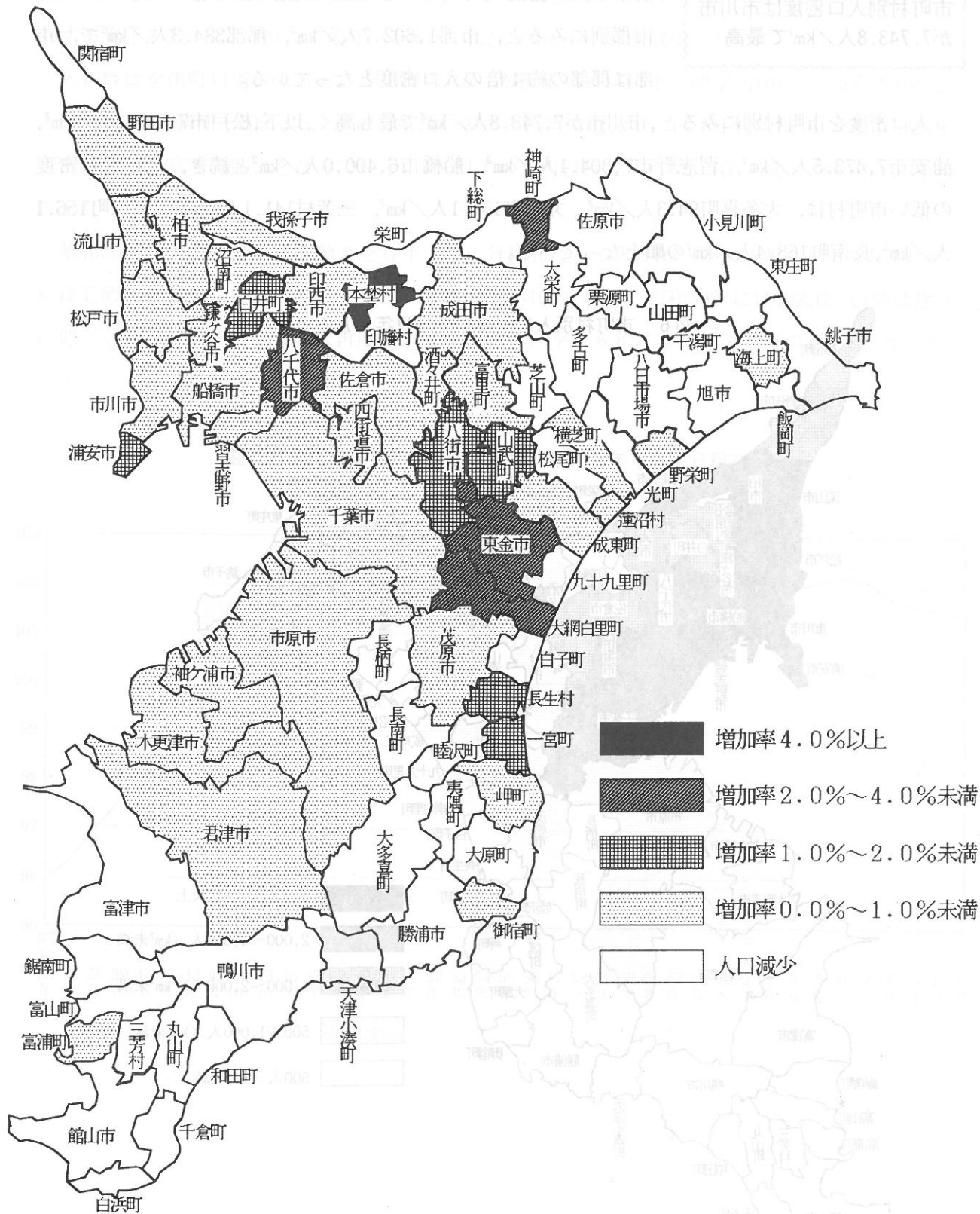
表3 人口増減率上位5市町村（平成6年～平成10年）

順位	平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	市町村	増加率	市町村	増加率	市町村	増加率	市町村	増加率	市町村	増加率
1	白井町	6.84%	白井町	6.75%	神崎町	5.02%	本埜村	36.72%	本埜村	12.51%
2	山武町	6.30%	神崎町	5.69%	山武町	3.53%	八街市	2.76%	神崎町	2.58%
3	印西市	6.12%	大網白里町	3.70%	印西市	3.37%	八千代市	2.73%	大網白里町	2.35%
4	八街市	5.30%	長生村	3.15%	大網白里町	3.00%	神崎町	2.66%	八千代市	2.34%
5	大網白里町	4.75%	山武町	3.13%	八街市	2.86%	大網白里町	2.12%	東金市	2.10%

順位	平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	市町村	減少率	市町村	減少率	市町村	減少率	市町村	減少率	市町村	減少率
1	鋸南町	1.63%	白浜町	2.89%	和田町	1.73%	鋸南町	1.59%	天津小湊町	1.39%
2	富山町	1.44%	大多喜町	2.75%	本埜村	1.41%	天津小湊町	1.18%	大多喜町	1.25%
3	和田町	1.15%	丸山町	2.29%	天津小湊町	1.27%	富山町	1.15%	鋸南町	1.12%
4	勝浦市	0.97%	和田町	2.26%	長南町	1.21%	千倉町	1.11%	長柄町	1.12%
5	大多喜町	0.79%	横芝町	2.21%	干潟町	1.14%	長南町	1.04%	勝浦市	1.01%

図5 市町村別人口増加率（平成10年1月～12月）

人口増加率



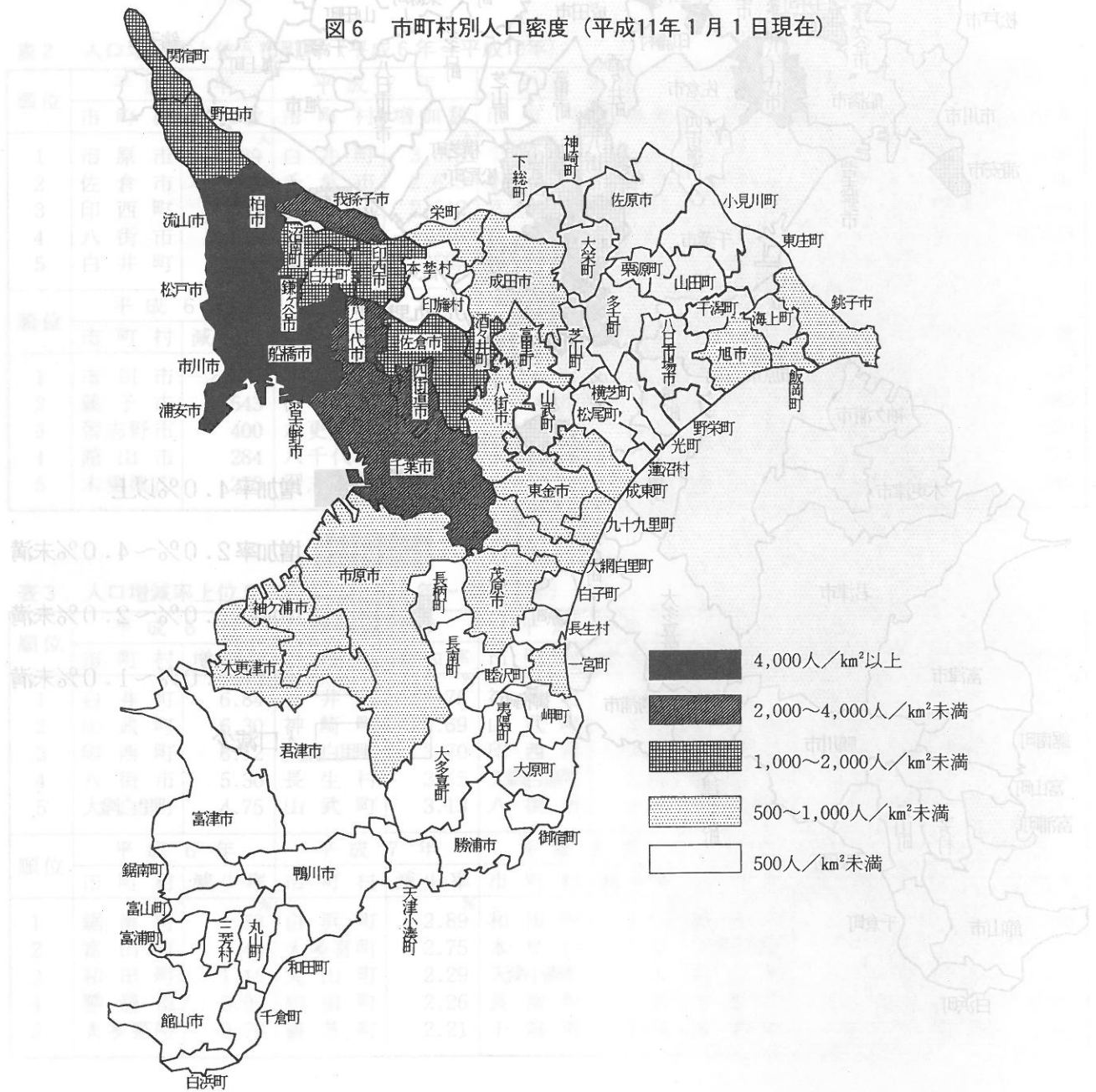
3. 人口密度

県人口密度1,143.3人/km²
市町村別人口密度は市川市
が7,743.8人/km²で最高

本県の人口密度は、平成11年1月1日現在1,143.3人/km²で、前年の人口密度(1,137.1人/km²)に比べ6.2人/km²高くなった。市郡別にみると、市部1,602.7人/km²、郡部384.3人/km²で、市部は郡部の約4倍の人口密度となっている。

人口密度を市町村別にみると、市川市が7,743.8人/km²で最も高く、以下、松戸市7,543.6人/km²、浦安市7,473.5人/km²、習志野市7,304.1人/km²、船橋市6,400.0人/km²と続き、逆に人口密度の低い市町村は、大多喜町94.3人/km²、丸山町132.1人/km²、三芳村141.1人/km²、富山町156.1人/km²、長南町168.4人/km²の順となっている。

図6 市町村別人口密度(平成11年1月1日現在)



4. 人口性比

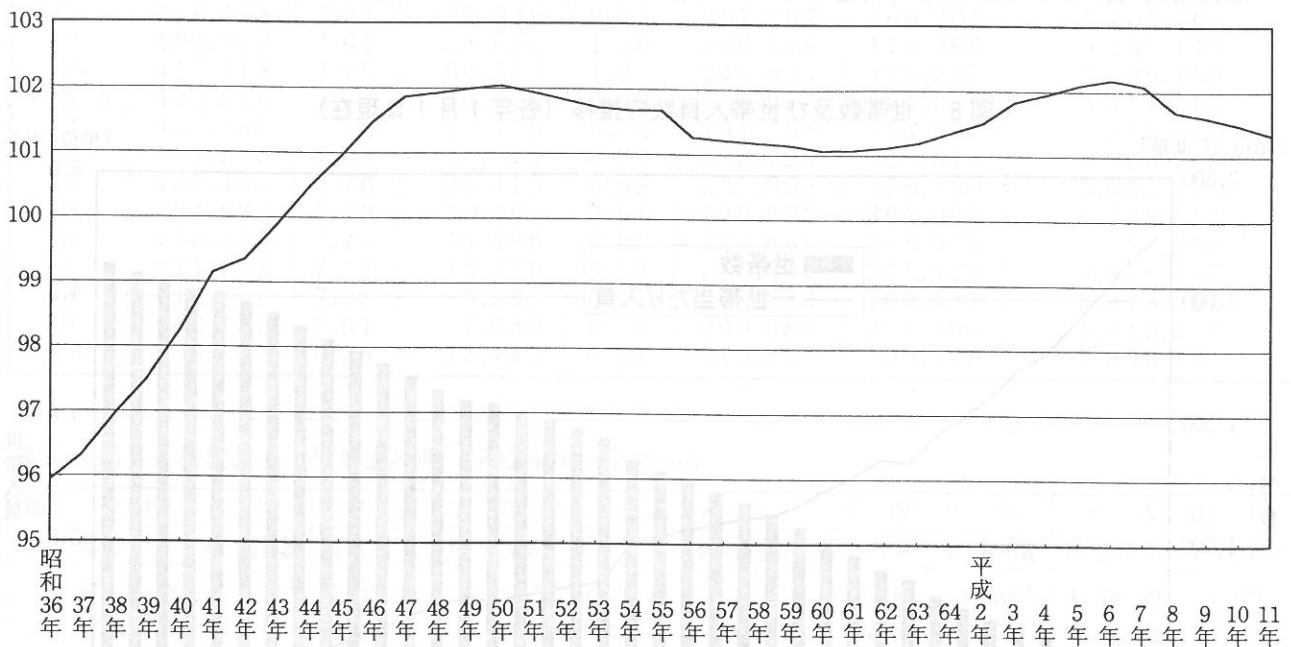
県人口性比101.3

平成11年1月1日現在の本県の人口を男女別にみると、男子2,966,938人、女子2,928,058人で男子が女子に比べ38,880人多く、人口性比（女子100人に対する男子の数）は、101.3で前年（101.5）に比べ0.2ポイント減少した。

人口性比を市町村別にみると、市川市の107.3が最も高く、以下、浦安市107.1、市原市106.3、大栄町105.4、勝浦市105.3で、逆に最も低いのは白浜町の82.0で、以下千倉町88.5、鴨川市88.9、御宿町90.2、富浦町90.4となっている。100以上の市町村は22市町で、100未満の市町村は58市町村となっている。

昭和36年以降の人口性比の動きを各年1月1日現在でみると、95.9から上昇し続け、昭和44年にはじめて男子人口が女子人口を上回り人口性比が100を越え、昭和50年には102.0、以降は徐々に低下したが、昭和63年以降は再度上昇傾向にあり、平成6年には、過去最高の102.2となった。

図7 人口性比（昭和36年～平成11年、各年1月1日現在）



5. 世帯数

県世帯数212万5千
1世帯当たり人員は
2.77人

平成11年1月1日現在の本県の世帯数は2,124,582世帯で、前年の世帯数2,086,992世帯に比べて37,590世帯増加し、増加率では1.80%となり、人口増加率0.55%よりも高い率となっている。

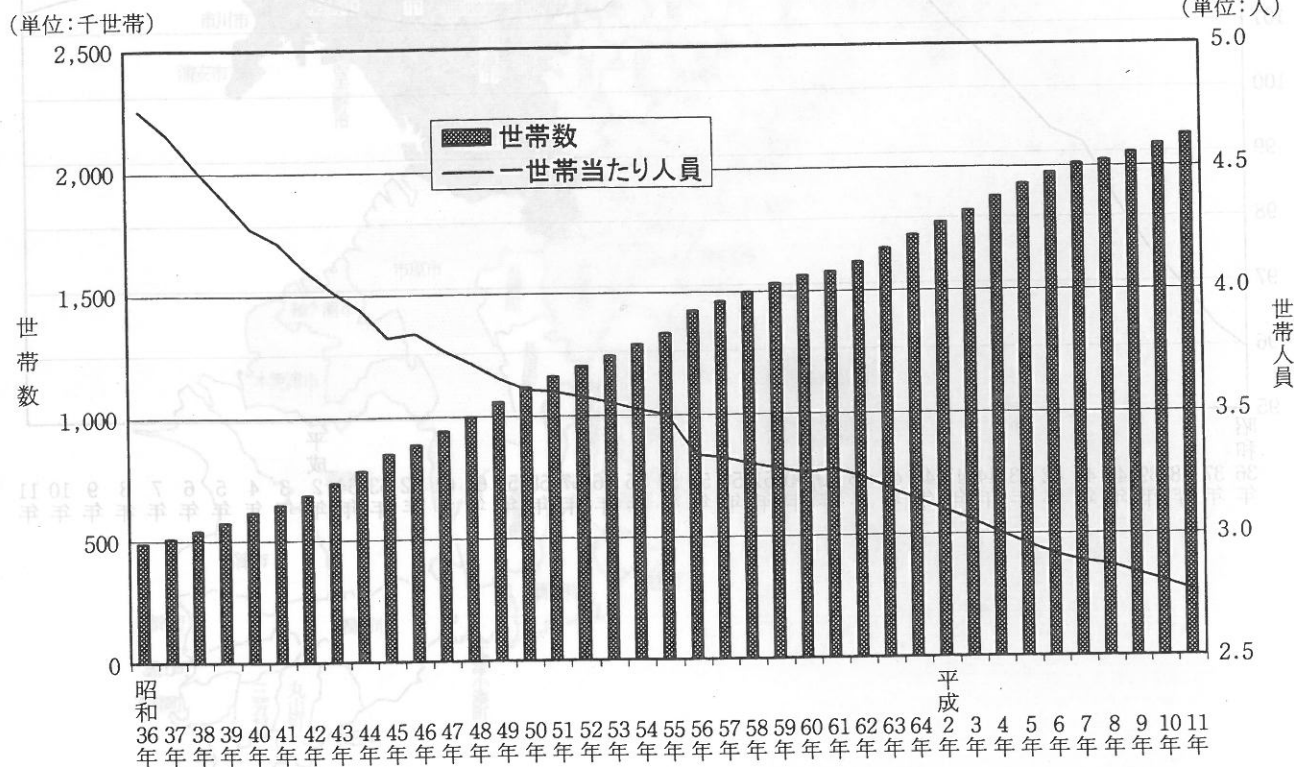
1世帯当たり人員は2.77人で、前年の2.81人に比べ0.04人減少した。また、1世帯当たり人員を市町村別に見ると、千歳町の4.31人が最も多く、以下、山田町4.03人、東庄町3.75人、野栄町3.73人、印旛村3.72人と続き、逆に最も少ないのは市川市の2.35人で、以下、浦安市2.40人、習志野市2.55人、船橋市2.57人、勝浦市2.59人の順となっている。県の1世帯当たり人員より少ないのは12市町で、多いのは68市町村となっている。

表4 月別世帯増加数（平成10年中）

	増加数	転入	転出	その他
1月中	1,387	6,051	5,323	659
2月中	376	6,416	6,651	611
3月中	2,591	18,774	17,179	996
4月中	15,479	20,983	9,283	3,779
5月中	3,743	7,980	5,568	1,331
6月中	2,643	7,420	6,015	1,238
7月中	1,722	7,655	7,009	1,076
8月中	2,474	7,592	6,236	1,118
9月中	2,398	7,690	6,344	1,052
10月中	2,985	7,771	6,102	1,316
11月中	888	6,169	5,899	618
12月中	904	5,670	5,639	873
計	37,590	110,171	87,248	14,667

注) その他は、県内間の転入転出、死亡世帯及び職権による記載・消除等をいう。

図8 世帯数及び世帯人員数の推移（各年1月1日現在）



6. 県外との人口移動

人口移動総数41万人
移動率6.96%

0.05ポイント低下した。

平成10年中の県外との移動者総数（転入者数と転出者数の和）は、409,201人で前年の410,182人に比べ981人減少し、移動率（各年7月1日現在人口に対する移動者総数の割合）は6.96%と、前年の7.01%に比べて

1万2千人の転入超過
転入超過率0.21%

平成10年中の県外からの転入者数は210,822人（前年209,081人）、転出者198,379人（同201,101人）で、転入超過数12,443人（同7,980人）となり、転入超過数は4,463人増加した。

また、平成10年の転入超過率（各年7月1日現在人口に対する転入超過数の割合）は0.21%と、前年の0.14%に比べて0.07ポイント上昇した。なお、県外との関係は42の都道府県から転入超過となり、4県へは転出超過となっている。

表5 年次別他都道府県間人口移動総数（昭和59年～平成10年）

年次	移動数	移動率	転入超過数	転入超過率	転入数	転出数	千葉県人口 (各年7月1日現在)
59	374,500人	7.40%	33,154人	0.66%	203,827人	170,673人	5,060,124人
60	374,583	7.31	31,067	0.61	202,825	171,758	5,127,278
61	376,498	7.24	38,086	0.73	207,292	169,206	5,202,569
62	401,782	7.61	57,850	1.10	229,816	171,966	5,283,115
63	417,118	7.75	64,544	1.20	240,831	176,287	5,380,759
平成元	422,316	7.72	54,224	0.99	238,270	184,046	5,471,257
2	432,300	7.79	43,116	0.78	237,708	194,592	5,546,610
3	431,533	7.69	44,911	0.80	238,222	193,311	5,608,760
4	437,491	7.70	38,413	0.68	237,952	199,539	5,680,470
5	434,997	7.58	30,987	0.54	232,992	202,005	5,735,511
6	430,738	7.45	14,586	0.25	222,662	208,076	5,781,768
7	421,118	7.24	10,278	0.18	215,698	205,420	5,816,032
8	411,860	7.08	6,586	0.11	209,223	202,637	5,818,369
9	410,182	7.01	7,980	0.14	209,081	201,101	5,849,014
10	409,201	6.96	12,443	0.21	210,822	198,379	5,880,299

表6 転入・転出超過上位都道府県（平成6年～平成10年）

順位	平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	都道府県	転入超過数	都道府県	転入超過数	都道府県	転入超過数	都道府県	転入超過数	都道府県	転入超過数
1	東京都	12,988人	東京都	8,624人	東京都	2,475人	神奈川県	1,268人	大阪府	1,271人
2	神奈川県	4,354	神奈川県	3,295	神奈川県	1,646	大阪府	1,174	埼玉県	874
3	兵庫県	314	兵庫県	1,429	愛知県	673	東京都	637	北海道	779
4	北海道	304	広島県	144	大阪府	377	静岡県	386	兵庫県	447
5	大阪府	289	岐阜県	110	広島県	343	愛知県	346	静岡県	397
順位	平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	都道府県	転出超過数	都道府県	転出超過数	都道府県	転出超過数	都道府県	転出超過数	都道府県	転出超過数
1	茨城県	4,424人	茨城県	3,405人	茨城県	1,846人	茨城県	1,410人	茨城県	1,053人
2	栃木県	311	埼玉県	493	福岡県	589	長野県	176	東京都	41
3	長野県	296	福岡県	436	宮城県	348	大分県	126	島根県	35
4	群馬県	182	北海道	344	栃木県	322	鹿児島県	115	福井県	24
5	和歌山県	175	長野県	261	埼玉県	221	群馬県	75		

7. 人口重心

人口重心は千葉市花見川区
畑町付近

本県の人口重心は、平成11年1月1日現在で、千葉市花見川区畑町付近の東経140度5分19秒・北緯35度39分41秒の位置にあり、平成7年国勢調査（平成7年10月1日現在）時点より南南西方向に約200m移動した。

大正9年の人口重心は、市原市瀬又付近であるが、その後、人口重心は北西方向に移動してきている。

(人注) 人口重心とは、人口の一人一人が同じ重さを持っているとして、地域内の人口を1点で支えて平衡を保つことのできる点をいう。これは人口の地域分布状況を集約して示す指標の一つである。なお、千葉県の人口重心の計算にあたっては、県内各市町村の人口重心がそれぞれ現在の市役所・町村役場にあると仮定した。

表7 千葉県の人口重心の推移（大正9年～平成11年）

年次	東度	分	経秒	北度	分	緯秒	移動距離 km	位置
大正9年	140	12	38	35	32	25	—	市原市瀬又付近
大正14年	140	12	24	35	32	49	0.8	千葉市誉田町付近
昭和5年	140	12	23	35	33	12	0.7	〃
昭和10年	140	12	22	35	33	29	0.5	〃
昭和15年	140	12	9	35	33	50	0.7	千葉市平山町付近
昭和22年	140	11	30	35	34	7	1.1	〃
昭和25年	140	11	24	35	34	18	0.4	〃
昭和30年	140	10	57	35	34	44	1.0	〃
昭和35年	140	10	8	35	35	23	1.7	千葉市仁戸名町付近
昭和40年	140	8	19	35	36	45	3.7	千葉市貝塚町付近
昭和45年	140	6	43	35	37	34	2.9	千葉市轟町付近
昭和50年	140	5	52	35	38	20	1.9	千葉市小仲台付近
昭和55年	140	5	27	35	38	53	1.2	千葉市小中台町付近
昭和60年	140	5	15	35	39	10	0.6	千葉市朝日ヶ丘付近
平成2年	140	5	8	35	39	28	0.6	千葉市畑町付近
平成7年	140	5	20	35	39	49	0.7	千葉市花見川区畑町付近
平成11年	140	5	19	35	39	41	0.2	〃

資料：大正9年～平成7年は、国勢調査結果による。（各年10月1日現在）
平成11年は、千葉県毎月常住人口調査結果による。（1月1日現在）

図9 人口重心の移動（大正9年～平成11年）

